



入所施設における権利擁護と問題点

—— オアシス研修会 より ——

3月17日、福祉制度部会が主催するオアシス研修会の1つとして社会福祉士の資格を有する松石献治会員を講師にお招きし、①同会員による「施設内での身体・経済上の諸問題」と題した研修会及び②入所者の金銭管理と権利擁護に関して参考判例解説を行なった。松石会員は、社会福祉士の資格取得後は、自宅の一部を「グループデイゆうゆう」（高齢者のための民間ミニデイサービス）として解放されており、まさに介護についての理論と実践を兼ね備えた経歴から「入所施設における権利擁護と問題点」というテーマに沿った問題点の指摘と提言をしていただいた。

入所施設の問題点

(1) 問題点

入所施設の特徴には、①閉鎖性・社会との接点の少なさ、②介護保険による財政圧迫とこれによって拍車がかけられた人手不足、③求められる高度の専門性、④法的根拠がないまま家族による契約締結やケアプランの同意などが行なわれている実情などの諸問題がある。

(2) 解決策

これらの諸問題のうち、①については、近時ノーマライゼーションの理念を反映したグループホームや、地域解放型施設の誕生、③については職員によるケースカンファランスや施設内外の研修等により介護の質を高める努力がなされていることなど、いずれも十分とはいえないながら徐々に改善される方向にある。

(3) 検討課題

ただ、措置型福祉から契約型福祉への流れに応じて、家族による無効な契約や同意などを排除して施設利用者自らによる契約や同意を確保することは必要であるが、現実の問題として、判断能力のない入所者本人に直接契約締結行為や同意を要求することは本来的に無理であり、判断能力のない入居者の全てに後見人が選任されているわけではない現状を前提にした場合、入所者の権利擁護のためにやむを得ず家族による契約締結や同意を黙認しなければならない場面があるのではないか、この場合にはどのように歯止めをかけるべきか、などといった検討課題がある。

この問題解決は非常に難しく、事案ごとに入所者の権利擁護の観点から現実的な方策を柔軟に採用することが要求されている。

(施設利用者の) 権利擁護を考える上での問題点

(1) 問題点

施設側の問題点として、①ベッド転落事故や車椅子転落骨折等を防ぐという口実で行なわれる身体拘束、②施設や家族による法的根拠なき金銭管理、③介護者による暴力、④オムツの時間管理・恣意的部屋替え等。立法上の問題として、成年後見費用と報酬負担の問題、医療行為禁止の厳格さ緩和の問題などがある。

(2) 解決策

入所者の身体的安全のために身体を拘束するのではなく、入所者の事故を防止するために高さを調節できるベッドの導入や床に安全対策を施すなどの工夫をしたり、十分な見守りを怠らないなどで、身体拘束をしないで安全を確保できる方法をとる。

金銭管理については、成年後見制度の利用率を高める努力をして対応する。

入所者の問題行動（徘徊、暴力、奇声、弄便等）については、粘り強い見守り、受容的対応、問題行動の真の原因究明と解決策の試行を心がけ、入所者を否定することのないよう心がける。

施設側の問題点には、策をして入所者の安全を確保

しようとせず、可能な限り手をかけて、見守りや対応をする。自分で排便できる入所者にはオムツをつけないことを徹底する（介護職員自身がオムツをして用を足してみることで、いかにオムツが人間の尊厳を奪うものであるかを実験するのもよい）。

(3) 検討課題

さらに、立法の問題として、将来的には公的資金による成年後見人の費用・報酬の負担を検討するとともに、医療行為に関する家族の同意の法的意味や、介護者にも許されるべき医療行為の範囲及び要件を真剣に検討する必要があるのではないか。

問題解決の視点

入所者の自己決定権の尊重はもとより重要な視点である。しかし、具体的にその自己決定権の行使と入所者の最善の利益保護の要請が相剋する場合、ことは簡単ではない。その調整は、高度の専門性に裏打ちされたバランス感覚に基づいた価格基準にしたがってケースバイケースで判断していくしかないといえる。

（高齢者・障害者の権利に関する特別委員会
福祉制度部会委員 三森 敏明）